

オアシス54号

院長
須藤 英仁

明けましておめでとうございます。昨年は大変お世話になりました。昨年は私ども法人にとりましてはまさに変動の年でした。新病院への引っ越しにはじまり、電子カルテの導入、眼科診療の開設など何10年に1度の事業が1度に行われた年でした。患者さんの本当にありがとうございました。患者さんとの協力のもと、どうにかすべての事業が軌道に乗りました。本当にありがとうございました。

新病院完成後、病院が明るくなつた、廊下が広くて気持ちがいいなどのお褒めの言葉もいただいておりますが、ときには患者さんに余分に待たせてしまいご迷惑をかけてしまつたことや、医師が電子カルテの方ばかり見ていて診察が不十分だ、などの叱りも受けております。当院では医療秘書を配置することにより少しでも患者とのコミュニケーションがうましくいくように考えております。しかし、まだ決して十分とはいえないがご不満な点もあるかと思いますがこれからも努力して行きたいと思いますのでよろしくお願ひします。またご意見箱なども設置しておりますので何かご意見ありましたらお寄せいただきたいと思います。

さて今年の目標を述べたいと思

います。今年の目標のキーワードは【連携】です。すなわち新病院とさわやかクリニック（旧病院）の各施設との綿密な連携、当院が関係しております介護施設とのしっかりした連携、また当院の医師が産業医等を行っている事業所との連携、これらすべての施設として連携を取って仕事を進めたいと思います。特に要介護事業所との連携は極めて重要と考えております。当院では『老健施設めぐみ』の運営や『軽老人ホーム・ジョリエやなせ』などの運営もおこなっておりますが、これら施設について入所者の方や通所者が本当に安心して生活できるように努力していきたいと思っております。ときには「院長たまにはめぐみにも顔を見せろよ」などのお叱りも受けております。また昨年末の研究発表会では、当院のケアマネージャーに、もつとしっかりと利用者のためになるよう叱咤激励しました。

高齢化社会を迎えるすべての病気を治すことは不可能です。しかし1つや2つの持病があったとしても

【支える医療機関、支える介護施設】がしっかりとしていれば患者さんの人生の大きな手助けになると私は思います。そんな施設となることを目指して当院で働くすべての職員が努力することをお誓い申し上げ年頭のあいさつとさせていただきます。

新年のご挨拶

さわやかクリニック

院長 柳澤 肇



須藤病院ならびに
さわやかクリニックをご利用の皆様、
新年明けましておま
めでとうござい
ます。さわやかクリ
ニック院長の柳澤
肇です。

平成20年5月15日より旧病院にてさわやかクリニックを開業いたしました。お蔭様で患者様の応援と従業員スタッフの協力で、無事に平成21年を迎えることが出来ました。さわやかクリニックでは、5月15日の開院日より12月30日までにのべ約6千人の患者様にご利用いただきました。また併設老人保健施設めぐみも変わらずにご利用いただき本当にありがとうございました。開業以来毎日診療していくにつれ、徐々に外来患者数も増加し、さわやかクリニックも地域に根ざした診療所に成長したと思っています。さわやかクリニックでは、マルチCTを完備し、これまでに約160人の患者様にマルチCTで診断を行い、肺癌の発見や病状の経過観察等に役立つております。患者さんに異常があれば直ちにマルチCT・レントゲン・エコー・脈波測定などの検査をして、より迅速な診断を下すことをモットーとすることを、本年度も掲げて行きたいと思っております。さらに本院放射線科医師小川先生による読影体制も整い、より信頼の出来る診療体系にもなりました。このことは、地域の皆さんにとって本当に有益な事と考えています。もちろん本院との連携もさらに綿密に行なっていきます。

さわやかクリニックでは、当初より、電子カルテ、オーダリングシステムを十分に機能することが出来ました。このごろでは、患者様から『先生だいぶコンピューターがうまくなりましたね』『コンピューターばかりみないでこっちを見てよ！』『先生の健康が心配だよ！』などお声を掛けていただいております。私は、さわやかクリニックをご利用くださる患者さまを家族として診察しています。院長として診療をしていますと全てのことが自分に責任があります。

毎日がプレシャーではあります
が、患者さんの訴えを良く聞き、
病気の早期発見・患者様の体調管理に努めて行きたいと思つて迷惑をす
ります。待ち時間が長くなるとご迷惑を
おかけすることもあると想いますが、
スタッフ一同より安全でより安心のできる医療を提供するよう努力してまいります。

今年は、少しづつさわやかクリニックの環境も整備していきたいと思つています。今よりさらに皆様のおそばに近づけるクリニックを目指してスタッフ一同がんばりますので、どうぞ宜しく御願いいたします。



視力低下について

眼科医師 森久保 聰一



須藤病院をご利用の皆様、こんにちは。眼科医師の森久保 聰一です。須藤病院で眼科外来を始めて、半年以上経ちました。そろそろ覚えていた

だけたでしょうか？今回は視力の低下についてお話をしたいと思います。僕は高齢の患者様から「先生、私は死ぬのは仕方ないと思うが、失明だけはしたくありません。」と時々言われます。なぜ、そう考えるのでしょうか。人は生活する上で視覚情報に非常に頼っています。試しに目をつむってみればすぐにわかりますが、日常行われている行為がほとんどできなくなってしまいます。そのため人は視力を失うことに対し強い恐怖を覚えます。皆様の生活の質を維持していくためには視力は大変重要です。

視力が成立するためには光の通り道が透明である必要があります。そのために眼球は多くのパートが透明な部分（角膜、水晶体、硝子体）があります。この光の通り道に混濁が生じ、透明さが損なわれると視力が低下します。目の表面のいわゆる黒目の部分が角膜です。角膜に怪我をしたり、感染症をおこしたりすると治癒後も混濁が残ることがあり、混濁が光の通り道に残りますと、視力低下につながります。目の中の光を曲げ、焦点をあわせてくれるレンズが水晶体です。白内障はこの水晶体が混濁する病気です。基本的に進行のゆっくりした病気ですのであせらず眼科で相談して下さい。硝子体は、

眼球の体積の約4／5を占める透明なゲル構造の組織です。硝子体が混濁する原因で一番多いのは硝子体出血です。硝子体出血は種々の病気で起りますが、多いのは糖尿病網膜症・網膜剥離・網膜静脈閉塞症・黄斑変性症に伴うものです。硝子体出血は原因疾患によって対応が異なるので、早く眼科受診して原因を特定する必要があります。

視力が成立するためにもう一つの構成要素が、光を感じてそれを電気信号として脳へ伝達する部分（網膜、視神経）です。網膜・視神経の神経細胞は損なわれるとほとんど再生されません。そのため早期に発見して進行を防ぐことが肝心です。網膜は光を感じ、電気信号に変換する組織です。糖尿病の患者様は合併症として糖尿病網膜症に注意する必要があります。「自分には糖尿病はあるが、よく見えているので関係ない。」という考え方は危険です。糖尿病網膜症の初期・軽症例は全くの無症状なのです。残念ながら糖尿病網膜症の進行が見られる患者様はレーザー治療が必要になります。そのレーザー治療の至適時期を逃さないためにも糖尿病の患者様は定期的な眼科での経過観察が必要なのです。網膜で変換された電気信号を脳へと伝えるのが視神経です。高眼圧を主な要因とし、視神経が障害されるのが緑内障です。この緑内障も初期はまったく無症状で、他の眼疾患で受診して見つかったり、健康診断で指摘されつかることが多いです。健康診断で緑内障を疑われた方は必ず眼科受診し検査を受けて下さい。

視力低下の原因を二つに大きく分け、代表疾患について簡潔に述べました。この文章が、皆様の眼疾患の理解の一助になれば幸いです。

新年のご挨拶

事務長 山口彦次



新年明けましておめでとうございます。昨年5月、新病院に移転してから初めてのお正月を迎えることができました。これも皆様のおかげであり、厚く御礼申し上げます。

さて、新病院では電子カルテの導入により、会計の迅速化や自動精算機とポスレジの活用で以前よりも金銭出納において正確な会計が出来るようになりました。自動精算機は事務の立場からすると効率的でとても便利な機械であります。しかしながら自動精算機を利用される患者様にとっては操作方法がわからなかつたり、機械が苦手だったりする方もおられると思います。そんなときにはお気軽に係の者に申し出て下さい。誠意をもって対応させていただきます。

また、一度自動精算機をご利用になられた方はお分かりになると思いますが、会計の後に「オダイジニ！」としゃべりかけてくれます。これがいいという方、そうでない方といろんな意見が聞かれます。機械は組み込まれたことを実行するだけであり、そこには人間の暖かさ、ぬくもりが感じられないことは事実です。私たちは機械化された中で少しでも人の持つ暖かさ、優しさを大切にしないければなりません。

世の中は今、不況の波が押し寄せ、今後の動向が不安でなりません。そんな中で私たちは皆様の健康を守り、少しでも元気な生活を送るお手伝いが出来たらと思っております。今年は「オダイジニ！」ではなく、心のこもった「お大事に！」を目指してがんばりますので宜しくお願ひいたします。

今年の抱負

一般病棟看護師長
佐藤明美



皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年は新病院移転・電子カルテ導入と、けん引抜いた一年のように思

います。新しい病院で働くということは不安もありましたが、それ以上に自然とやる気も上がりました。皆様のご協力のおかげと全職員が頑張ったことで、新病院も早期に軌道に乗ることが出来たと思います。

さて、今年ですが、軌道に乗った須藤丸の中身を更に充実させる年にしたいと思っております。

それには私自身が考えをはっきりと持ち、看護師達に伝え続けなければならないと感じています。そこで、この場をお借りして今年の抱負をお話し、自身の行動をしっかりとさせたいと思います。

最後に、須藤病院の看護師一同、この目標を徹底し患者様により良い看護を提供できるよう頑張って行きたいと思っております。本年もよろしくお願ひ致します。

看護部 本年の目標

須藤病院の全ての患者様が私たちの受け持ち患者様です。

外来・病棟・さわやかクリニック・老健めぐみ、全ての患者様に、私たちが出来ることを一杯行います。

患者様に関わる事で、受け持ちでないから知らない、わからないとは答えません。

最後まで責任を持って、行動します。